

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第27回

森の彫刻家 上 床 利 秋



上村松園作「鼓の音」

スポーツは相手との駆け引きもあり、そうではないと思っていたのだが、最近テレビ観戦するにつけて今でも私の作品を産み出す糧になつていて。女子卓球は若手乱立の感が強い。群雄割拠の中でも昨年の覇者伊藤美誠選手は「自分のことを研究してラバルは挑んでくるので、それをどう対処できるか、毎回の試合を楽しんでいる」と話していた。そして再び優勝。それは日頃の心の持ち方からくる勝者の姿だった。

私は展覧会における美の競演は共演でもあり、それはそれで良いこと

「すべて芸術は、人の心を楽しませ、清くし、高めるために役立つべきもので、そのためにだれかを負かそうとしたり、人を押しのけて自分だけの欲を満足させたりする道具にすべきではない。」

芸術は競うものではないという「鼓くらべ」山本周五郎作の短編小説を、かつて読んだことがある。学生時代、家庭教師先の中学生の教科書の中のことだった。感銘を受けた今でも私の作品を産み出す糧になつていて。

最後は自分との戦いなのだと思うことが多々あった。テニスの大坂なおみさんは、失敗の対処法に自分の心をさつと切り替えることで世界大

きもので、そのためにだれかを負かそうとしたり、人を押しのけて自分だけの欲を満足させたりする道具にすべきではない。」

鼓くらべ

会を制覇するまでに成長していくたのは読者もご存知のはず。

今年の全日本卓球は十代の若手台頭が著しくて目を見張る戦いが多かつた。男子では現在世界的にも有望

は先輩には勝てると思う。」と公言し

たが、結果的には準決勝で伏兵の選手に敗れ自滅した。若くて勝ち気盛

イバルは、連覇しなければならない」という重責です。」と答えていた。壁を感じて今までの戦法を変えて練習を重ね謙虚に試合に臨んだ決勝では、まるで生まれ変わった水谷選手の独壇場で優勝した感が強い。普段の努力を知る彼のファンに囲まれて喜び合う姿をテレビ画面の前でいいものを見たと感じた人は恐らく自分だけではなかつただろう。

女子卓球は若手乱立の感が強い。

群雄割拠の中でも昨年の覇者伊藤美誠選手は「自分のことを研究してラバルは挑んでくるので、それをどう対処できるか、毎回の試合を楽しんでいる」と話していた。そして再び優勝。それは日頃の心の持ち方からくる勝者の姿だった。

だと考へてい
る。しかしながら

ら展覧会が大きくなれば

なるほど

に、どこか

切ない似非芸術家の心を垣

諭した言葉の、作家山本周五郎の考へこそ真理の一つと思いたい。

かつて恩師仲村晋也先生がフラン

スのラ・サル・ダ・聖堂を見学されたときに、「飾られている六人の天使像のうち、なぜ微笑む天使だけが有名なのか?」と教え子たちに問われたことがあった。その答えを話されることはなかつたが、私はその正解を自分の作品に表せるようになりたいと思つた。

日展覧員 第一幼児教育短期大学 教授

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上 床 利 秋

このページのバックナンバーも読みることができます。

検索



ランス大聖堂の六体の天使像 右端に微笑む天使

レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週日曜日 16:00~ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00~ ②13:30~ 子供絵画教室
- 月1回 第2木曜 10:00~ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー<POP文字・筆文字・絵手紙など
チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで